

目を覚まし準備して、主の二度目の、目前に迫った来臨のために、  
主によって用意を整えられる

聖書：マタイ 24:1-3, 32-44. 25:1-13

- I. 「来臨（パルシーア）」というギリシャ語は、「臨在（同在）」を意味します。キリストの来臨は、彼と彼の民が同在する時です。彼のパルシーアは、大患難の前に男の子（啓 12:5）と初穂（14:1-4）が携え上げられることで始まり、大患難の終わりに彼と聖徒たちが共に地上に現れることで終わります（マタイ 24:27, 30. II テサロニケ 2:8. ユダ 14 節）。
- II. わたしたちは主の二度目の、目前に迫った来臨のしるしを見る必要があります——マタイ 24:1-3：
- A. この時代の終わり（大患難の最後の三年半が始まろうとする時）の最大のしるしは、王国の福音が人の住む全地に宣べ伝えられることです——マタイ 24:14. 啓 6:2。
- B. 主の来臨のもう一つの大きなしるしは、いちじくの木によって表されているイスラエルが奇跡的に復興されて国家となったことです。信者にとって、このいちじくの木はこの時代の終わりのしるしです——マタイ 24:32-35. エレミヤ 24:2, 5, 8。
- C. 主の二度目の来臨の日の前に、背教が起こり、そしてあの不法の者、反キリストが出現します——II テサロニケ 2:3, 7：
1. 罪は不法です。それは、人を支配する神の原則の外で、またその原則の下にない生活をするからです——I ヨハネ 3:4。
  2. 今日、不法の奥義は、諸国民の間と人類社会において働いており、ついには、あの不法の者である反キリストが出現するに至ります。滅びる者たちは、神が彼らに与えようとされた真理の愛を受け入れません。ですから神は、彼らに惑わす働き、人を誤りに導く活動力を送って、彼らが虚偽を信じるようにするのです——II テサロニケ 2:11。
  3. こうしてわたしたちは、イザヤ書第 5 章 20 節が虚偽を信じる者たちにおいて成就することを見ることができます。「災いだ、悪を善、善を悪と呼ぶ者たち。暗やみを光とし、光を暗やみとし、苦いを甘いとし、甘いを苦いとする者たち！」。
- D. この時代の最後の三年半の大患難が始まろうとする時、反キリストは荒らす忌むべき偶像、すなわち彼自身の像を宮の中に設立して、人々にその像と彼自身の両方を拝ませます（マタイ 24:15. ダニエル 9:27. 啓 13:14. 14:9, 11）。これが示しているのは、主が再来する前に、神の宮が再建されるということです（II テサロニケ 2:4）。
- E. 洪水前のノアの世代を麻ひさせた邪悪な生活の状態は、主の来臨と大患難の前の、人の生活の危険な状態を描写しています——マタイ 24:3, 21, 27, 37, 39. ルカ 17:26-27. 21:34-36。
- F. 主の二度目の来臨のしるしは、彼の多くの信者が信仰に欠けることです。「人の子が来る時、地上に信仰を見いだすであろうか？」——ルカ 18:8。
- G. 主の二度目の来臨のもう一つのしるしは、「不法がはびこるので、多くの人の愛が徐々に冷えてくる」ことです——マタイ 24:12. 啓 2:4。

H. 終わりの時と主の二度目の来臨とのしるしは、過度に富を貯蓄することです。「あなたがたは、終わりの日に宝を蓄えてきました」——ヤコブ 5:3 :

1. 主の来臨前の終わりの日に、人々がかつてないほどに富を蓄え、こうして自らの来たるべき悲惨な状態と、神の裁きという悲惨な運命に気づいていません——マタイ 16:27。

2. 終わりの日には、物質的な享受と、情欲に満ちた放縦が空前の快樂主義と共に増大します——ヤコブ 5:1-6. 参照、ゼカリヤ 5:5-11。

III. 主によって取られるために、わたしたちは彼の目前に迫った来臨のために目を覚まし、彼の花嫁になるために用意し準備している必要があります (マタイ 24:32-44. 啓 19:7)。

それは、わたしたちが大患難の前に携え上げられるためです (3:10. ルカ 21:36) :

A. 携え上げの意味は、主の臨在の中へと取られることです。もしわたしたちが主の臨在の中へと取られようとするなら、わたしたちは今日、主の臨在の中にいなければなりません——II コリント 2:10. 詩 16:11. 27:8. 43:4. 使徒 3:19-20. 出 33:14-16. 参照、創 4:16。

B. わたしたちは主の出現 (主の再来) を慕う者となるために、今日、主がわたしたちに出現すること、現れることを尊んでいなければなりません——II テモテ 4:8. 使徒 26:16. ヨハネ 14:21。

C. 取られる人は命において円熟しており、取られない人は円熟していません。円熟することは、生涯の事柄です。主の来臨のために、わたしたちは主を極みまで愛し、すべての事で彼の中へと成長することによって、自分自身を用意して、彼の出現の時に、円熟していて携え上げられることができるようにしておく必要があります——ヘブル 6:1. ヨハネ 21:15-17. エペソ 4:15. 参照、創 5:22-24。

D. 携え上げられる準備をすることは、祈ることによって極みまでキリストで満たされて、わたしたちが命において成長し円熟するという事柄です——エペソ 3:16-17 前半. 詩歌 298 番。

E. 目を覚ましていることの意味は、注意し、油断せず、毎日、つまづく可能性に対して警戒していることです。目を覚ましている人は、自分に信頼しない人であり、自信を持っていない人です——エレミヤ 17:7-8. II コリント 1:8-9. ピリピ 3:3. I コリント 10:12。

F. 主は盗人のように (マタイ 24:43-44)、彼を愛している人たちの所へひそかにやって来て、彼らを彼の宝として取り去ります。キリストは彼の信者たちに尊く (I ペテロ 2:7)、わたしたちの願いは、彼にわたしたちの無上の尊さ、わたしたちの宝としての彼ご自身で (II コリント 4:7)、わたしたちを満たし浸透していただくことです。それによって、わたしたちは尊ばれる人、さらには尊さそのものとさえなりません (ダニエル 9:23. 10:11, 19)。

G. 特に、これらの終わりの日に、わたしたちは夜が明けて明けの明星がわたしたちの心に昇るまで、預言者の言を、暗い所に輝くともし火のように、よくよく心にとめている必要があります (II ペテロ 1:19)。わずかしかない日々に、わたしたちは主を愛し、主に仕える者となり、日々復興され、勝利する者となりましょう。そしてこの世を過ぎゆかせて、準備し、心を尽くして主の二度目の来臨を待ち望む者とな

りましょう。

**IV. マタイ第 25 章 1 節から 13 節の主の言葉は、目を覚ましていることのたとえです：**

A. 処女は、命の面から見た信者を表徴します。王国の民である信者は貞節な処女に似ており、暗い時代に主の証し（ともし火）を携え、この世から出て行って主を迎えます。このために彼女たちは、聖霊の内住だけでなく、聖霊の充満をも必要とします——Ⅱコリント 11:2. ルカ 11:13：

1. ともし火は信者たちの霊を表徴し、それは油としての神の霊を内容としています——箴 20:27. イザヤ 61:1. ヘブル 1:9. ローマ 8:16：

a. 信者たちは、彼らの霊の内側から神の霊の光を輝かせます。神聖な光が人の内側の各部分を照らすために、油としての神の霊が、灯心としての人の霊にしみ込み（ミングリングし）（参照、16 節）、人の霊と共に「燃え」なければなりません（12:11）。

b. こうして信者たちは世の光となり、この時代の暗やみに輝くともし火のように（マタイ 5:14-16. ピリピ 2:15-16）、主の証しを担って神の栄光を現します。

2. 「出て行く」（マタイ 25:1）とは、わたしたち信者がどんな場所にも定住したり、徘徊したりしないことを示しています。反対に、わたしたちはこの世から出て行って、わたしたちの花婿である来臨するキリストを迎えます。

3. わたしたちは主を追い求める者として主の来臨を待ち望み、彼と共に出て行って、彼を迎えます。それは、わたしたちの愛する方としての彼に寄りかかることによって、寄る辺なき者のように彼に信頼し、絶えず彼をわたしたちの「出て行く」力として享受して、この世を後にすることによってです——雅 8:5 前半。

B. 「愚かな者たちは、自分のともし火を持っていたが、油は持っていなかった。しかし、思慮深い者たちは、自分のともし火と共に、器に油を持っていた」——マタイ 25:3-4：

1. 器は信者たちの魂を表徴します——ローマ 9:21, 23-24。

2. ともし火に油があるとは、神の霊をわたしたちの霊に内住させていることです。器に油を持っているとは、神の霊をわたしたちの魂に満たし浸透させており、わたしたちが主の証しのために処女の生活をする事ができるということです——マタイ 25:4, 9-10。

3. わたしたちは、その霊をわたしたちの再生された霊の中に持っています。しかし一つの問いは、わたしたちが魂の中にその霊の余剰を持っているかどうかです。

4. 思慮深い処女は、自分たちのともし火と器の中に油を持っていました。これが表徴するのは、わたしたちの造り変えのために、わたしたちの魂の中でその霊をもって満たされることによって、油の余剰を持っていたということです——Ⅱコリント 3:18。

C. 油を得る、すなわちその霊をさらに多く受ける最も良い方法の一つは、神の言葉を思い巡らすことによって、祈りの霊と雰囲気の中で彼と親密な交わりを持つことです——詩 119:15, 23, 25, 27, 48, 78, 97, 99, 148. ヨハネ 6:63. エペソ 6:17-18。

D. 「愚かな者たちは思慮深い者たちに言った、『あなたがたの油を少し下さい。わたしたちのともし火が消えそうですから』。しかし、思慮深い者たちは答えて言った、

『わたしたちとあなたがたのためには、おそらく十分でないでしょう。それよりも、売る者たちの所に行って、自分のために買いなさい』——マタイ 25:8-9 :

1. 買うとは、代価を払うことを意味します。わたしたちは代価を払って、わたしたちの魂の中でその霊によって満たされる必要があります——マタイ 25:4. 参照、箴 23:23. 啓 3:18 :
    - a. わたしたちの霊の中へと入って来たその霊は（ローマ 8:16）、無代価で与えられました。しかし、わたしたちの魂を満たす余剰の油としての浸透する霊は、無代価ではありません。これは、わたしたちが代価を払って買わなければならないものです。
    - b. この代価は、この世を放棄すること、自己を対処すること、すべてにまさって主を愛すること、キリストのゆえにすべての事を損失と勘定することなどを含んでいます——マタイ 16:24-26. マルコ 12:30. ピリピ 3:7-8。
  2. わたしたちの緊急の必要は、手順を経た三一の神の究極的完成であるその霊をさらに多く得ることです。そして、その霊の余剰を買って、わたしたちの全存在に浸透させる生活をするということです——マタイ 25:9. 参照、ダニエル 5:27。
- E. 愚かな処女たち、すなわち器の中に油を持っておらず、主イエスが来る時に準備していない人たちは、婚宴にあずかり損ないます。わたしたちが早く携え上げられて婚宴に入るかどうかは、わたしたちが日ごとにその霊を買っているかどうかにかかっています——マタイ 25:10-12. 啓 19:7-9. II コリント 4:16. テトス 3:5 :
1. わたしたちが資格づけられて、携え上げられ、花婿の婚宴に入るためには、長い過程を経過して、わたしたちの器の中に十分な霊的油を蓄える必要があります——啓 19:7-9。
  2. わたしたちは思慮深い、賢い処女、すなわち命において目を覚ましている人であろうとするなら、時を贖い取る必要があります。これは、わたしたちがすべての利用可能な機会をつかんで、その霊で満たされることを意味します。十分な油が、わたしたちを婚宴へと入らせます——エペソ 5:16。
- F. 目を覚ましていることは、一日中その霊で満たされていることです。もしわたしたちがその霊にわたしたちの全存在に浸透していただくなら、わたしたちは目を覚ましている人であり、主の二度目の来臨のために自分を準備し、主によって用意を整えられつつあります——エペソ 5:14-18. 啓 19:7. 21:2。
- G. わたしたちは毎日、目を覚まして、代価を払って金の油としてのその霊を買う必要があります。それによってわたしたちは、その霊をもって諸召会に供給して、イエスの証しとならせ、また主の褒賞を得て、小羊の婚宴にあずかります——マタイ 25:9-10. 啓 3:18. ゼカリヤ 4:6, 11-14. 士 9:9。